

「釧路湿原自然再生協議会」

第 6 回 湿原再生小委員会

資 料

平成 2 2 年 9 月 2 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 6 回 「湿原再生小委員会」 －

日時：平成 22 年 9 月 2 日（木） 13：30～16：00

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第一会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 幌呂地区湿原再生について
 - 2) 広里地区湿原再生について
 - 3) 釧路湿原の面積について
 - 4) 5 年目の施策の点検について
4. その他
5. 閉 会

配 布 資 料

- ・ 第 6 回湿原再生小委員会 出席者名簿
- ・ 第 5 回湿原再生小委員会 ニュースレター
- ・ 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
湿原再生小委員会 委員名簿

計：38名

■個人(19名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	植村 滋	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
2	金子 正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 流域圏環境管理研究プロジェクト 主任研究員
4	神田 房行	北海道教育大学 教授
5	木村 勲	
6	清水 信彦	
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウエットランドセンター主任技術委員 (環境ファシリテーター)
9	高山 末吉	
10	橋 治国	NPO法人北海道水文気候研究所 水環境部門(環境クリエイティブ社内)
11	辻井 達一	財団法人 北海道環境財団 理事長
12	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
13	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
14	橋本 正雄	日本野鳥の会釧路支部 副支部長
15	松本 文雄	
16	宮尾 素子	
17	矢部 和夫	札幌市立大学 教授
18	山下 彰司	独)土木研究所 寒地土木研究所
19	山田 浩之	北海道大学大学院 農学研究院 農林環境情報学研究室 助教

■団体(12名)

(敬称略、五十音順)

※

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 加藤 正道
2	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
3	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
4	鶴居排水路維持管理組合	組合長 瀬川 勝巳
5	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
6	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
7	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一
8	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事表 百瀬 邦和
9	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
10	北海道標茶高等学校	校長 西田 丈夫
11	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
12	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 安田 修
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 野口 明史
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	鶴居村	村長 日野浦 正志

※第4期(後期)新規構成員

項目	発言概要	回答および今後の検討方針(案)	備考
幌呂地区 平成20年度 の調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 幌呂地区でどの程度の客土を行ったのか。A区域とB区域の地下水位の深度の差が30cm程度あるが、それは客土の厚さの違いによって生じた差ではないということか。 	<ul style="list-style-type: none"> A区域は客土したものではなく、明渠を掘削した際の土を敷き均した程度である。村道に並行して設置されている排水路の影響で地下水位が下がっている可能性も考えられる。B、C区域は客土を一切行っていない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> A区域では、農地改良時に播種を行ったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> A区域では播種を行った。B、C区域では行っていない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 資料では、水位が安定している時期に地下水位観測を行ったと記されているが、年間を通じて大体この程度の水位と考えて良いのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 観測結果は年間を通じての平均的な地下水位に近いと考えている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> もう少し広い面積で調査を実施することで、林が成立した年代の違いなどを把握することができるかもしれない。ハンノキの生長量調査は数多く実施されていると思うので、過去のデータも含めて整理した方が良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小委員会でいただいた意見を、今後のデータの集積等に活かしていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 区域1~3のハンノキの生長量が異なるのは、現状の地下水位だけではなく、季節的な冠水期間の長さが萌芽状況に関係しているのかもしれない。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 区域1に生育しているハンノキ全10株中のうち、萌芽していない5株については、排水路掘削後に生長したものと考えて良いのではないか。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 区域1の拡大林のハンノキは、樹齢の幅が小さい。この先、継続して調査を実施し、樹齢の幅が表れた後でなければ、伸長・肥大生長を続けていると判断することはできないのではないか。 		

第5回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）

(2/2)

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
平成21年度の予定	<ul style="list-style-type: none"> 10m 四方では周囲の植物の影響を受けやすく、縁の部分にはクサヨシなどが残ると思う。実際に再生事業を行うことを想定し、実際に近い試験を実施した方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 植生調査等を行う際の一般的な大きさと考えて 10m 四方とした。 サロベツの事例を踏まえれば、10m 四方でも試験は可能だと考え、試験区の大きさを設定した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 表土の厚さと掘削深の関係を考慮し、表土分を剥ぐのか、表土の深さ以上に深く掘削するのか、検討した方が良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地表面と地下水面の高さ関係に着目して試験計画を立案した。モニタリング結果を踏まえ、引き続き検討を行っていく予定である。 	

第5回湿原再生小委員会での意見を踏まえ、本小委員会で報告する事項を以下に示す。

①幌呂地区現地植生回復試験の方法及び結果報告

⇒意見

- ・ 10m 四方では周囲の植物の影響を受けやすく、縁の部分にはクサヨシなどが残ると思う。実際に再生事業を行うことを想定し、実際に近い試験を実施した方が良いのではないか。
- ・ 表土の厚さと掘削深の関係を考慮し、表土分を剥ぐのか、表土の深さ以上に深く掘削するのか、検討した方が良いと思う。

第6回 湿原再生小委員会

資料目次

	頁
1. 幌呂地区湿原再生について	1
1-1. 幌呂地区現地植生回復試験について	1
1-2. 幌呂地区湿原再生事業の考え方	8
1-3. 今後の予定	11
2. 広里地区湿原再生について	13
2-1. 広里地区の変遷と現状	14
2-1-1. 広里地区の変遷	14
2-1-2. 広里地区の目標と課題	14
2-2. 調査・検討結果	15
2-2-1. 旧農地区域の湿原への再生	15
2-2-2. ハンノキ林の取り扱い	22
3. 釧路湿原の面積について	31
3-1. 過去の経緯について	31
3-2. 釧路湿原面積の確定作業	32
4. 5年目の施策の点検について	43